

本検討会での検討に係る意見

1 検討の視点

ICTは道具であるという視点が重要である。

本来的にはICTを使うことが目的なのではなく、ICT(道具)を使って何をすることが重要であるが、「何をするか」は、本来、各個人が何をしたいかによって決まることであり、この検討会の対象とは異なると思われる。

既にICTはコモディティ化しており、「ICTを使えばこんなに便利」などという「使うと便利」的な普及啓発はそれほど重要ではない(使えば便利な社会になっていけば当然に使うようになるからである)。

寧ろ本検討会では、「道具」の使い方を検討する場所であると理解している。

2 ICTという道具の利用について考える必要がある点(本検討会で具体的な検討対象として考えられる点)

(1) 情報過多の社会における情報の適切な選択を確保すること

→ 思考の基盤として重要である

・フィルターバブルなどは知らないと感じかない

一部は、法制度的な対応が必要なところがあるが、仕組みについての普及啓発には意味がある

(2) 年長者の経験が機能しない世界における普及啓発方法の検討

→ 皆が平等に未経験な世界に直面しているため、「道具」の使い方に関し、いわゆる「大人の知恵」を伝達することでの年少者の教育が期待できない(家庭・保護者に期待できる役割の事実上の低下)

→ 各世代に対するアプローチが必要

どのような場所・方法で普及啓発を行うのかを具体的に検討する必要がある

(3) ネットとリアルの齟齬をできるだけ解消する

年少者に対しては、リアルでの生活領域とネットでの生活領域をできるだけ一致することが重要

(「道具」は、発達段階に応じて利用させるべき)

年少者に対してはリアル世界と同じく「小さな世界で失敗できる」環境をネットでどのように確保するかが重要である。